世界市場を見渡しても商品というのは、常に競合品や模倣品との比較対象とされる宿命にあります。
ところが、競合他社はおろか、どこの誰がテントを提供するとは限りません。そこで私たちは お客様に違いをご理解いただく為に、AUTOHOME®製品と類似した競合製品との正確な比較データを公表することにしたのです。
これにあたり私たちが特に注意したことは、重要ではありますが客観的な指定ができないあらゆる条件判断を排除し、テントの実用性と機能性、つまりテント生地に着目しました。

ファブリック（生地）

使用されている競合他社のテント生地とAUTOHOME®製オリジナル・テント生地の分析

競合他社Barouci製テント生地

Autohome®製 - オリジナルテント生地

必須要件

オートホーム提供チーム提供

野営テントに使用される地は決して固く、整地性に優れているということだけではいけません。もしそのような生地を使用していたら、テント内部は息苦しくなるからもしれません。
特にテントのような広い空間の都合は通気性もまた重要なファクターとなります。テントと生地はrain和で空気の自然な循環も期待を持ち、水蒸気に対して高い吸湿力と優れたような特性を持った生地だけが本当に快適な環境を保持することを可能にします。真髄なクオトメーカーの常識として、技術的に言えば、通気性の低いテントと生地では結露しやすく、湿気と菌熱を促進してしまいます。

通気性

繊維 – 空気透過性の測定（内部から外部への空気の通過速度）試験方法：UNI EN ISO 9237/97

結果は之集の通り明白です。
競合他社製品の生地は通気性が全くありません。
通気のない生地は室内の湿気や室温の上昇を助長し、非常に不健全な状態にさせます。
これは決して見逃すはずも、通気性のある生地の代替え提案として、サーキュレーターや中空気を動かすことは多少の助けにはなるかもしれませんが、快適性の向上にはほとんど貢献せず健全な室内を作り出すことは出来ません。
健全なキャンプは通気のないテント生地では不可能です。通気の欠如は深刻で、健康状態を悪くします。人間は睡眠中に汗をかきます。その量は季節差がありますが、成人の場合、一晩で平均ペットボトル1本分（500ml）、真夏には1リットルにものぼるかを考えることもあります。通気のないテントでは、このかなり全て室内に留じ込められた内壁や天井にの湿気を放さざる原因にもなります。
競合他社がこの問題を解決するために採用した二つの対策は、室内を換気しやすくするために窓の数を増やしたことです。しかしそれでは新しい問題つまり蚊です。光が室温室内に飛び込んで来たり、外で聞いているとはいえど安心しない環境になっていました。
一方、AUTOHOME®が使用するORALON®（ドラロン）オリジナルファブリックは絶大な防虫性、自然換気をする生地というのが特徴です。
熱、湿気、結露は自然にテント室外に放出します：年中無休で。この生地はそもも高ストネマが私たちは上記のような理由でこの生地を1980年からずっと使い続けています。Autohome®製品にとってどこにとってのできない重要な材料料です。

防水性

繊物を垂直方向に使用した時の水の滲水度を5～5時間で測定する試験方法：UNI EN ISO 4920/13

競合他社の生地はより湿った状態となり、縫い目が緩みます。プラスティック系コーティング処理したドライテント生地は硬く繊脆作業性に難があります：縫製針で開けられた穴はテント使用時に生じる引っ張りや圧縮によって拡に広がり、そこから雨水が入込む原因となります。競合他社製テントでは、テント生地とファイバーグラスシェルの取り付け部分に生態な接着剤が施されています。
折り目型をテージングでカバーするのは従に広告ないので、レジンあるいはシリコンを使い使ってメンテナンスが必要になります。
一方、AUTOHOME®使用するORALON®（ドラロン）オリジナルファブリックは元々耐水性が高く、繊維が柔軟で縫製し易いのでそうした問題が生じません。而天将は生地が水分を含み繊維、縫い糸が膨張し生地全体、縫い目を塞ぐことで防水効果を高めるのこの生地の特徴です。

耐熱性

テント内の熱損失からテント生地の耐熱性を測定する試験方法：UNI EN 31092/12

試験結果では競合社の生地は温まり易いことを示しています。

水蒸気透過率

所定の温度及び湿度の条件 で24時間に1平方m単位 で通過する水蒸気の量を測定する試験方法：UNI 9278/88

結果は前page で語り合致もありません。比較にならずもしたで：6288 g/d*m²に対し536 g/d*m²です。
オートホーム生地の方が10分の1以上 g/d*m²と言っています。
試験では競合他社の生地の方が熱と水蒸気を外部に放出できず、内に溜め込んでしまうということが示されています。
だからこそ競合他社のルーフテントは、たとえスクライパーが無くなったとしても至る所に窓を設けて室内をオープン状態に保つ必要があるのです。
室に対応ベンチレーターを設置したから、気と言葉を忘れ出です。その生地の通気のないことを暗に言っているのです。
ベンチレーターはルーフ部分にonly下を開けての換行となるため、その分開風の自因となるなります。
一方AUTOHOME®、AUTOHOME®が使用するORALON®（ドラロン）オリジナルファブリックは熱を逃がし空気を循環させるというこの品質要件を満たしているとが分かります。。
快適さとアフィバーを理性でする自己ロケールの自己様で型で行なお安全とします。